



非接触EMV対応POSガイドライン (全体概要編)

1. 3版
クレジット取引セキュリティ対策協議会

2022年3月

更新履歴

更新日付	バージョン	章	内容	備考
2017.11.1	1.0版	—	新規作成	
2018.3.13	1.1版	7. 非接触EMV取引が処理できない場合について	「別のカードにて取引を行ってください」の記述を削除し、「接触EMV処理を行う。接触EMV処理不可の場合は別のカードにて取引を行ってください。」に変更	
2018.3.13	1.1版	8. 非接触対応のマークについて	<ul style="list-style-type: none">・リップルマークを削除し、各ブランドのロゴマークのみ掲載・「アクセプタンスマーク」という表現を削除し、「非接触対応のマーク」という表現に変更	
2020.10	1.2版	4. 売上処理における比較：処理フロー（接触EMV決済、非接触EMV決済）	<ul style="list-style-type: none">「4. 売上処理における比較：処理フロー（接触EMV決済、非接触EMV決済）」・フロー図、「オンオフ判定」を「EMV結果判定」に修正「11. 導入段階における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い」・「非接触EMV決済」の「その他」欄追記	
2022.3.8	1.3版	別紙参照	指摘項目等改訂	

はじめに

世界では国際ブランドが採用している世界標準(ISO14443 Type A, Type B)に準拠した非接触EMV決済(「タッチ決済」あるいは「コンタクトレス決済」と呼称されています)が急速に普及しています。日本では既にFeliCaを利用した非接触IC決済が普及していますが、訪日外国人の急増や、ポストコロナ時代に向けて接触EMVのインフラ整備が進んでいく中、利便性や海外との相互互換性の観点から非接触EMVの普及も急速に進むと思われます。そのため、日本の加盟店においても接触EMVとあわせて非接触EMVの決済に対応することが、円滑なカード決済のために有効です。

このような状況を踏まえ、非接触EMVを搭載したICカード(ISO14443 Type A, Type B)の決済(以降、非接触EMV決済と記載)に対応した端末導入に向けた検討を行い、今般、「非接触EMV決済対応POSガイドライン」を取りまとめました。

本ガイドラインは、主にアクワイアラ、情報処理センタが端末を導入する際の共通仕様に関する項目や、加盟店に設置された際の、接触EMV端末との運用性の整合性および磁気端末との相違点等について説明しております。

本ガイドラインをご一読いただき、今後の非接触EMV決済に対応した端末の導入の際のご参考にしていただければ幸いに存じます。

● 本ドキュメントの位置づけ

本ガイドラインの構成は以下の通りです。

ドキュメント名と主な記述範囲	I. 概要把握	II. 企画・設計		III. 導入		IV. 運用・保守	各ドキュメントの主な対象読者
		端末関連	情報処理センタとの接続関連	端末操作・表示等	店員教育・啓発		
非接触EMV対応POSガイドライン(全体概要編)	●			●	●	●	端末ベンダ 情報処理センタ 加盟店IT担当 加盟店営業担当
非接触EMV対応POSガイドライン(取引処理編)		●	●				端末ベンダ 情報処理センタ 加盟店IT担当

総目次

□1. 売上処理編

1. 売上処理における比較:カード操作と本人確認方法(カード)	… 6
2. 売上処理における比較:カード操作と本人確認方法(モバイル等)	… 7
3. 決済端末での3点アクトィベート(3面待ち)	… 8
4. 売上処理における比較:処理フロー(接触EMV決済、非接触EMV決済)	… 9
5. 売上処理における比較:処理フロー(非接触EMV決済:モバイル等)	… 10
6. 売上処理における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(まとめ)	… 11
7. 非接触EMV取引が処理できない場合について	… 12
8. アクセプタンスマークについて	… 13

□2. ネットワーク対応編

9. 精算運用における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(接触EMV)	… 15
10. 精算運用における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(非接触EMV)	… 16
11. 導入段階における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い	… 17
12. システムにおける接触EMV決済と非接触EMV決済の違い	… 18

□3. 非接触EMV決済端末に設定する情報関連

13. 非接触EMV決済端末に設定する情報(CA公開鍵・リスク管理パラメータ)	… 20
14. 非接触EMV決済端末に設定する情報の留意点	… 21

□4. 用語解説

15. 用語解説	… 23
----------	------

売上処理編

□1. 売上処理編

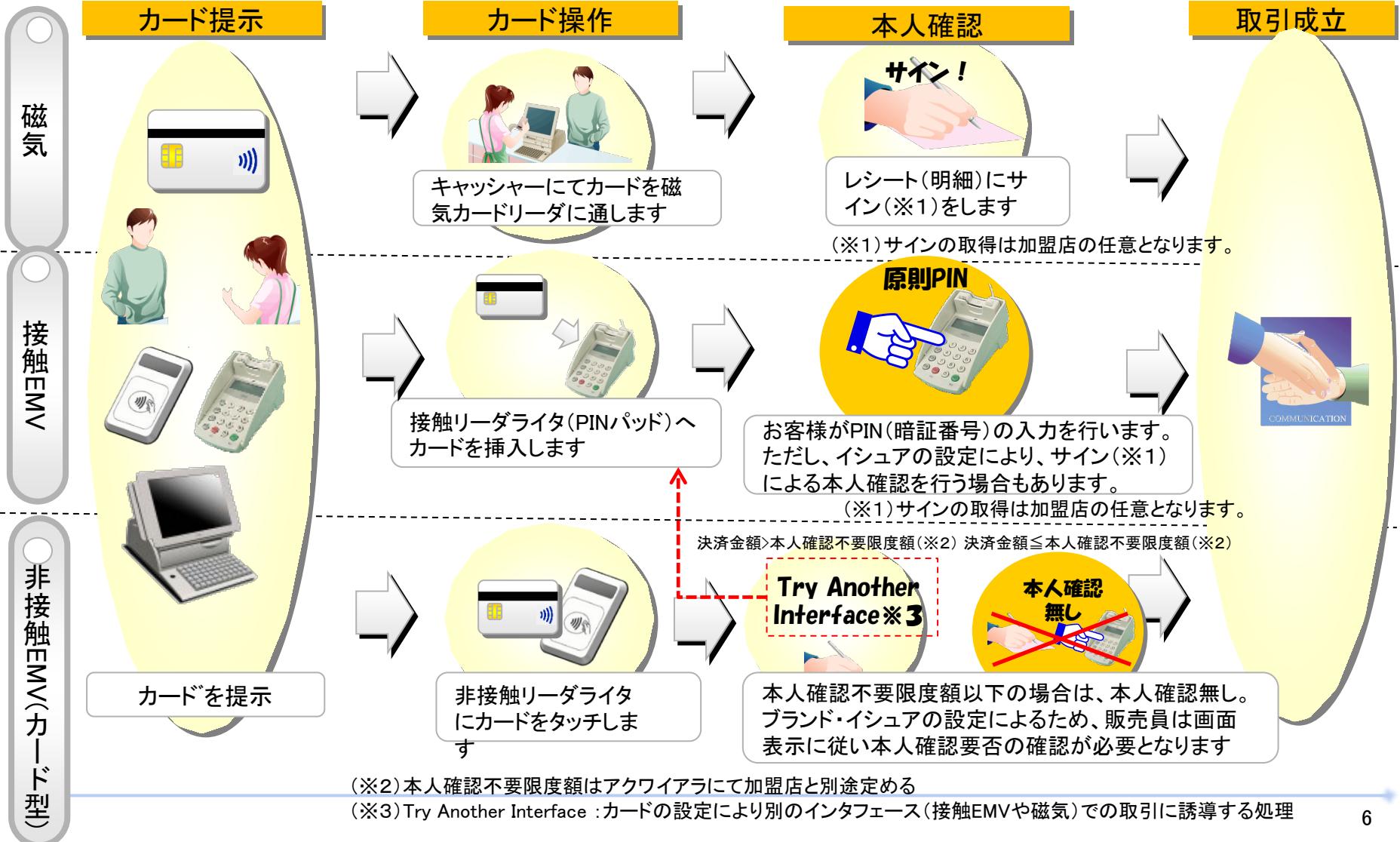
1. 売上処理における比較:カード操作と本人確認方法(カード)	…	6
2. 売上処理における比較:カード操作と本人確認方法(モバイル等)	…	7
3. 決済端末での3点アクトィベート(3面待ち)	…	8
4. 売上処理における比較:処理フロー(接触EMV決済、非接触EMV決済)	…	9
5. 売上処理における比較:処理フロー(非接触EMV決済:モバイル等)	…	10
6. 売上処理における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(まとめ)	…	11
7. 非接触EMV取引が処理できない場合について	…	12
8. アクセプタンスマークについて	…	13

○接触EMV決済と非接触EMV決済の「本人確認方法」の違い、及び「売上処理」の違いを、カード操作方法/処理フローにてご紹介いたします。

※本人確認を不要とする限度額(CVM Reader Required Limit)を1万円として記載している箇所がありますが、ブランドにより変わることがあります。

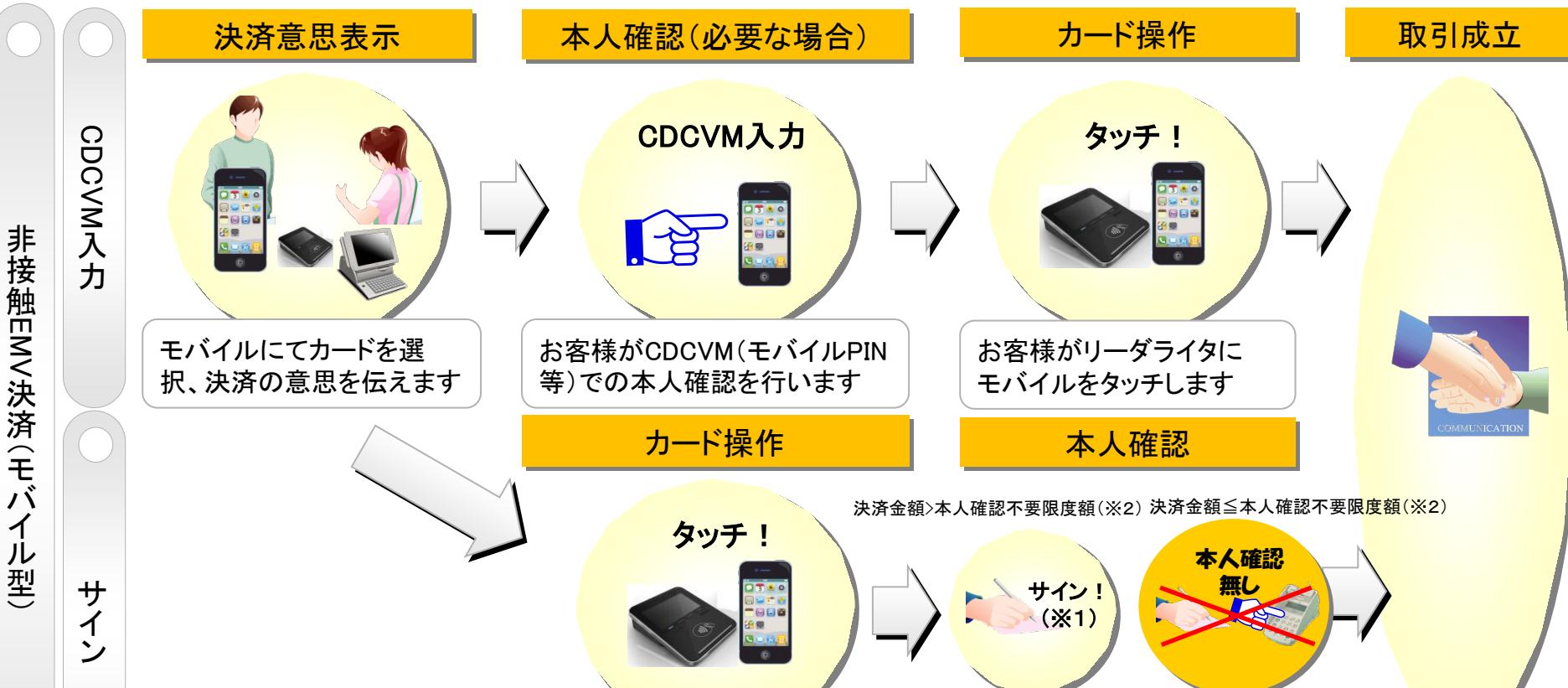
1 売上処理における比較：カード操作と本人確認方法(カートリーダー)

売上処理におけるカードの操作と本人確認の方式の違いについて以下に示します。
ICカードではPINの入力が行われるところが大きな違いです。



2. 売上処理における比較: カード操作と本人確認方法(モバイル等)

非接触EMV決済をモバイル型(ウェアラブル、キーホルダー型も含めて本書ではモバイル型と称す)で利用した場合のカード操作と本人確認方法を示します。
モバイル型の本人確認方法はCDCVM※もしくはサインとなります。

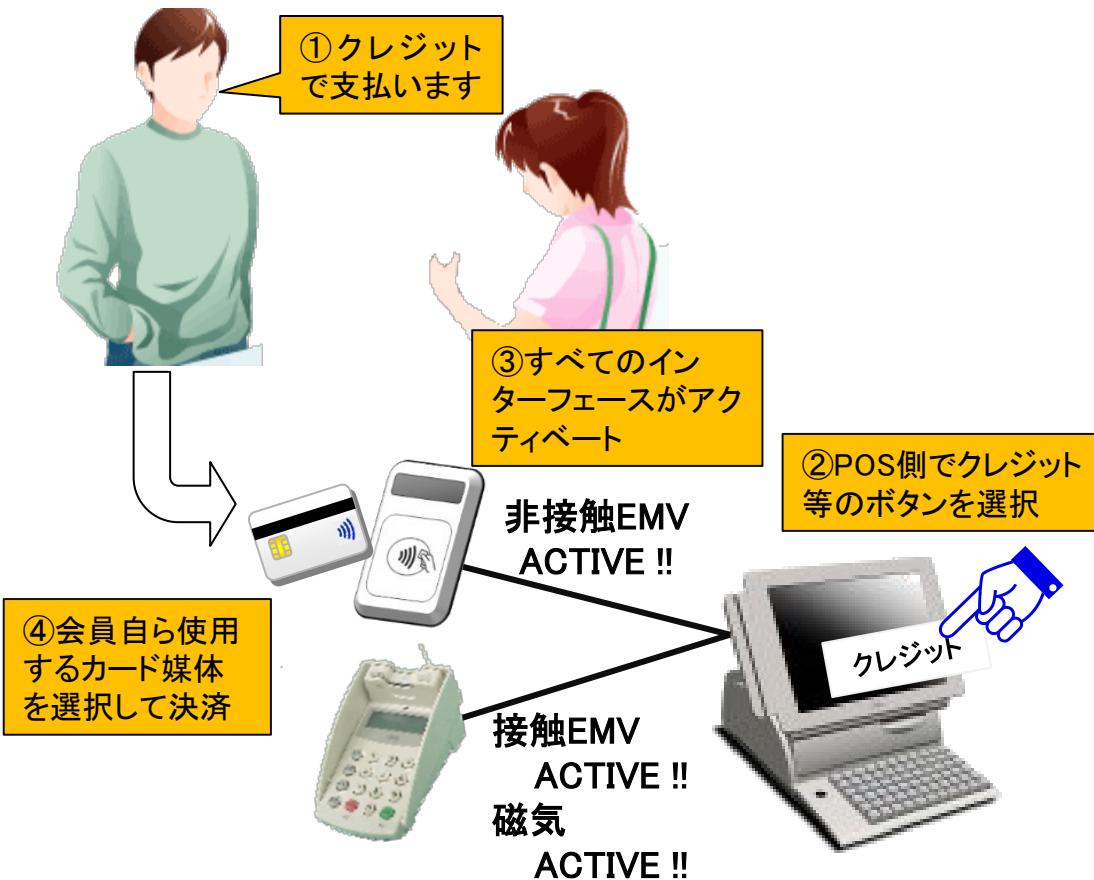


※CDCVM : Consumer Device CVM の略

モバイルデバイス上で実施されるカード保有者検証で、
モバイルPIN/パスコードや生体認証などがある

3. 決済端末での3点アクティベート(3面待ち)

非接触EMV決済は磁気、接触EMVに続く決済インターフェースに位置付けられています。よってこれまでの国際ブランドのカード決済との運用の親和性を鑑み、一つのボタンで磁気、接触EMV、非接触EMVを一度にアクティベートする3点アクティベートを端末に実装することを標準とする。



3点アクティベートのメリット:

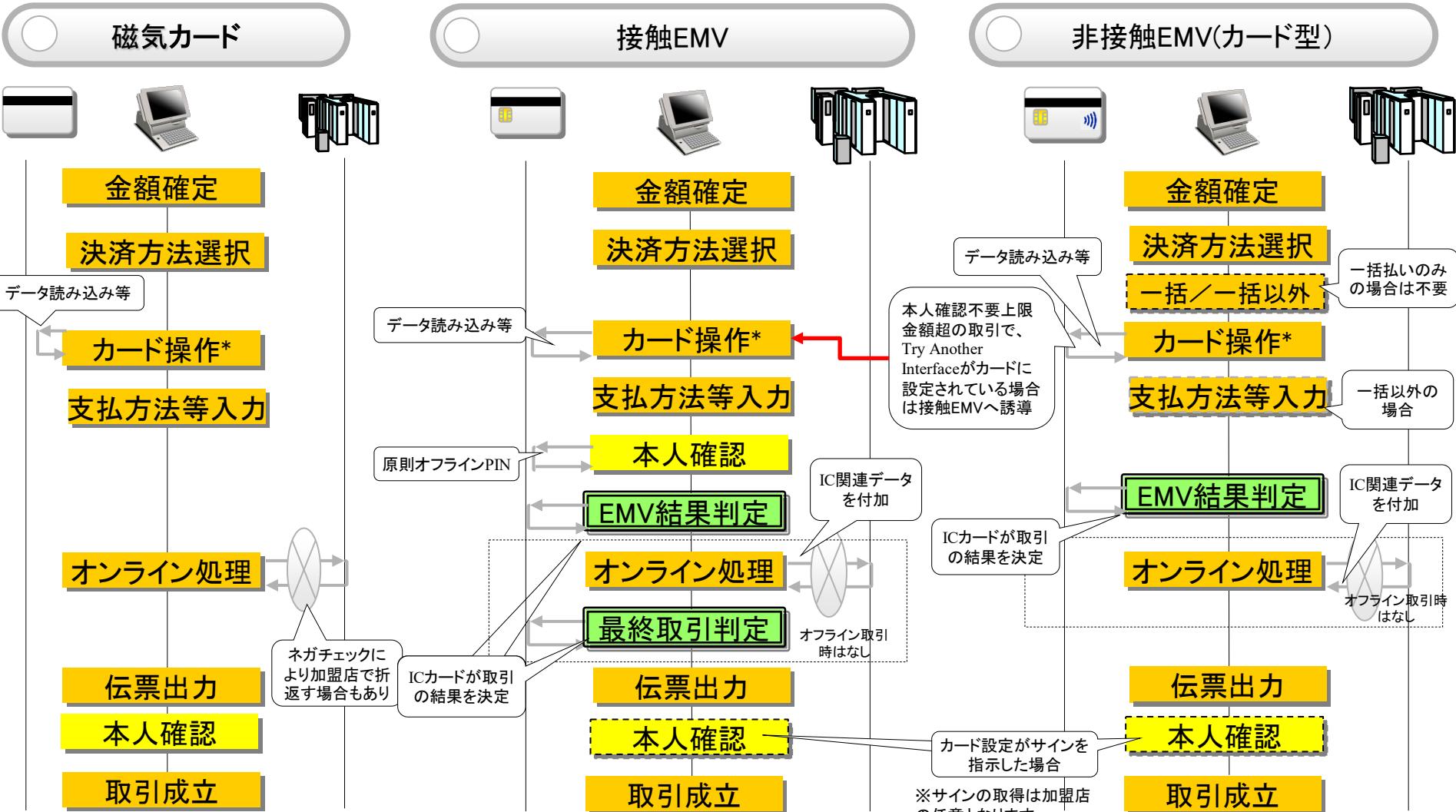
- これまでの磁気、接触EMV取引のアクティベーションの方法と整合性がとれスマートな運用が可能
- 訪日外国人はこの方法に慣れている
- 国際ブランドのカードやモバイル等が使われる際は、すべて同一のボタンで済むため、加盟店の教育の負担軽減が可能
- セルフレジなどの無人端末での運用において最も親和性が高い
- Try Another Interfaceが設定されたカードで、決済金額が上限を超えた場合、カード会員が最初から接触EMV取引を選択することが可能

ただし、Try Another Interfaceによって再度アクティベートする場合は、磁気と接触のみアクティベートする等、3点アクティベートにこだわる必要はない。また、Try another Interfaceの場合、リーダー内でInterfaceの再活性化を制御する場合と一旦POSに処理結果を通知し再度POSから処理を指示する方法があるが、加盟店や端末ベンダーによって実装方法は異なる。

今後、非接触クレジットのみの端末(Tap on Mobile等)や磁気リーダーのない端末なども想定されており、そういういたケースまでは制約しない。

4. 売上処理における比較：処理フロー（接触EMV決済、非接触EMV決済）

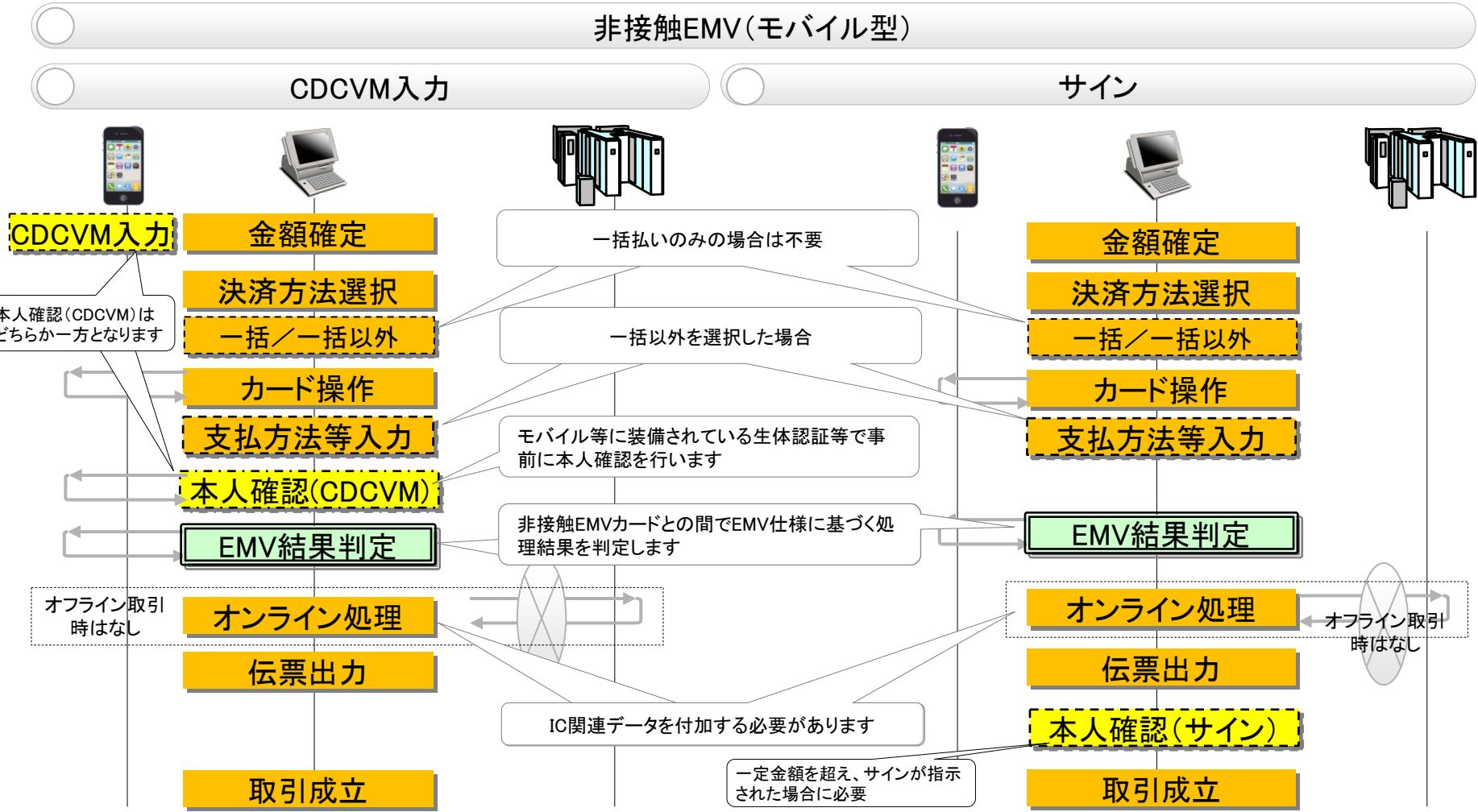
売上処理における磁気、接触EMV、非接触EMV決済の処理フローの違いについて示します。



*加盟店によってはカードを販売員に手渡さず、カード会員自らカード操作を行う

5. 売上処理における比較：処理フロー（非接触EMV決済：モバイル等）

売上処理における磁気、接触EMV、非接触EMV決済の処理フローの違いについて示します。モバイル等での決済では事前にCDCVMによって本人確認が実施される場合があります。



6. 売上処理における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(まとめ)

前頁までに記載した内容のまとめと、その他特記事項を以下に示します。

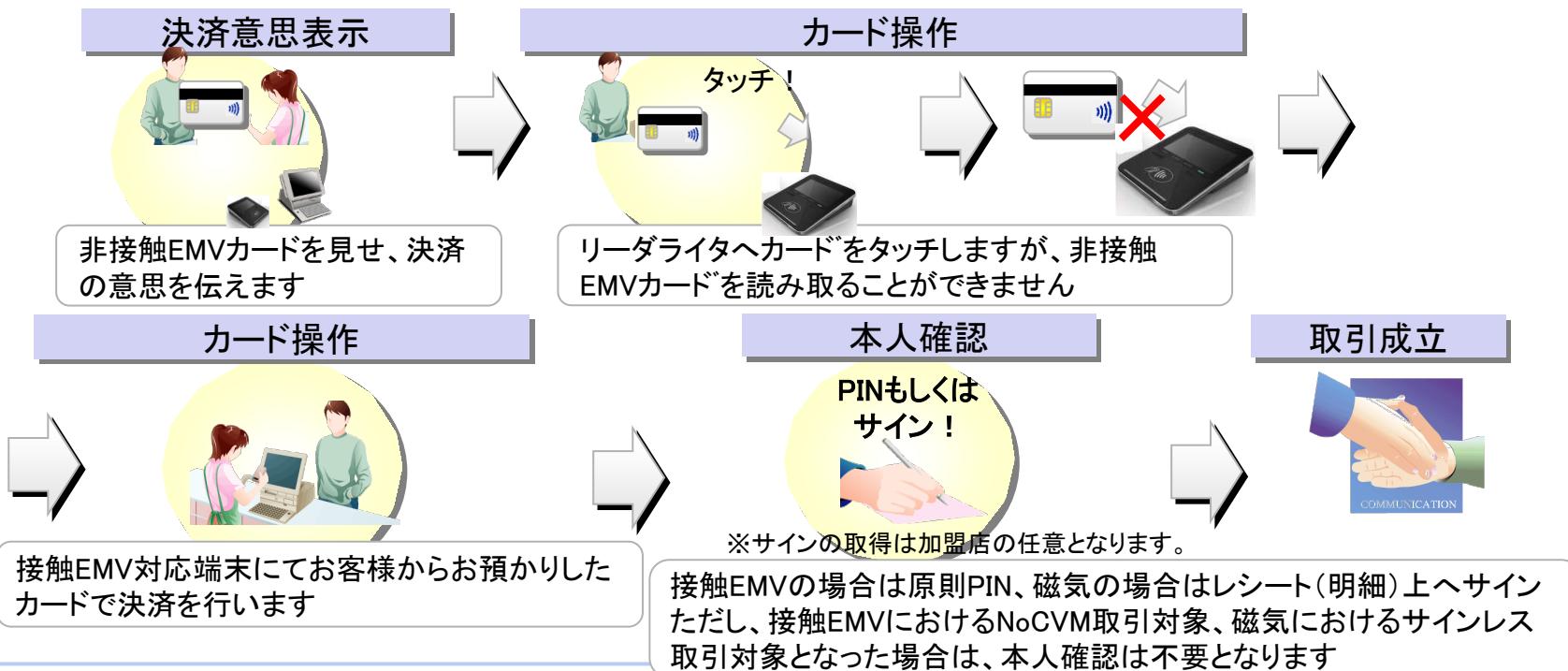
		接触EMV決済	非接触EMV決済		
運用段階 (販売業務)	カード操作	<ul style="list-style-type: none">・販売員によって、カードをICカードリーダに挿入する・ICカードリーダにはお客様によるカード挿入の場合もあり(面前処理が前提)	プラスチックカードの場合	<ul style="list-style-type: none">・リーダライタにはお客様によるカードタッチが前提	
			モバイル型の場合	<ul style="list-style-type: none">・リーダライタにはお客様によるカードタッチが前提	
<p>〈カード操作における注意事項〉</p> <p>非接触EMVの黎明期では、接触EMV(MS含む)と非接触EMVでアクワイアラが異なる場合がある。このため、取消/返品時に元売上と異なるインターフェースが使用されると、アクワイアラ相違によりオーソリや売上処理においてエラーが発生し、店頭での混乱や煩雑な事後処理が懸念される。非接触EMVに対応するPOSでは、取消/返品時に元売上と同じインターフェースが使用されるよう留意し、システムや運用面での対処が必要である。</p> <p>(例)・取消/返品時は元売上のインターフェースのみがデバイス側で活性される。 ・取引伝票には使用されたインターフェースを印字し、取消/返品時に伝票を見ながら操作する。</p>					
本人確認 (必要な場合)	<ul style="list-style-type: none">・お客様によるPINパッドへの暗証番号(PIN)入力	プラスチックカードの場合	<ul style="list-style-type: none">・一定金額までは本人確認不要 ただし、本人確認要の場合は、接触EMVへ誘導(Try Another Interface)もしくは、カードの設定によってはサインとなる。 ※サインの取得は加盟店の任意となります。	モバイル型の場合	<ul style="list-style-type: none">・一定金額までは本人確認不要 モバイルによっては、事前にお客様がモバイルでCDCVM認証する場合や、サインとなる場合がある。 ※サインの取得は加盟店の任意となります。

7. 非接触EMV取引が処理できない場合について

非接触EMV取引が処理できない場合は、別のカードでの取引処理を行っていただくことになります。

ただし、カード型の場合、当該カードで接触EMVによる処理を行っていただくことになる場合もあります。(下表No.2)

No.	処理できない要因	販売員／お客様に行っていただく処理
1	非接触EMVチップ故障やアンテナ故障など	別のカードにて取引を行ってください
2	カード型の非接触EMV取引で Try Another Interface を指示	当該カードを用いて接触EMVによる取引を行ってください (磁気にて処理を行うと、接触EMVに誘導されることになります)
3	非接触EMV取引を拒否	当該カードを用いて接触EMVによる取引を行ってください。接触EMVの取引ができない場合は別のカードにて取引を行ってください。



8. 非接触対応のマークについて

非接触EMV決済に対応した加盟店端末には、EMVCoが定めるコンタクトレスマーク(コンタクトレスシンボル*)が、カードリーダの非接触取引のタップを行う位置に貼付/表示されます。加盟店や端末によっては、その周りに国際ブランドのロゴが掲示されるケースや、端末の傍に国際ブランドのロゴマークが掲示されるケースもあります。

* EMVCo's Contactless Indicator Trademark – Acceptable Use Casesを参照

日本国内では既に多くの非接触決済が導入されており、国際ブランドの非接触EMV決済のマークをリーダに掲示できないケースがあります。この場合はポップ等でレジ周りに非接触EMV取り扱いのマークをご提示ください。(図1の加盟店店頭表示例)

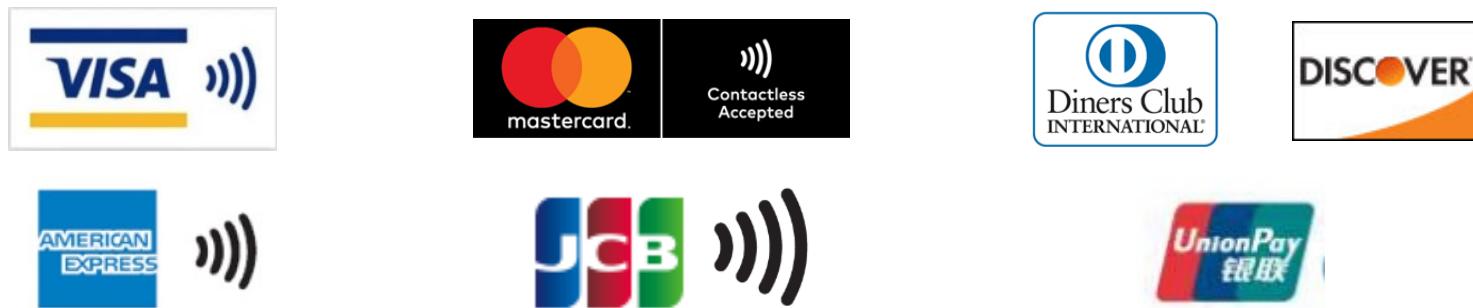


図1:加盟店店頭表示例(2021年3月現在)

最新のブランドロゴ及び提示方法についてはアクワイアラにお問い合わせください

ネットワーク対応編

□2. ネットワーク対応編

- | | |
|---|------|
| 9. 精算運用における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(接触EMV) | … 15 |
| 10. 精算運用における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(非接触EMV) | … 16 |
| 11. 導入段階における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い | … 17 |
| 12. システムにおける接触EMV決済と非接触EMV決済の違い | … 18 |

○接触EMV決済と非接触EMV決済の精算フロー及び、システム導入時における相違点をご紹介いたします。

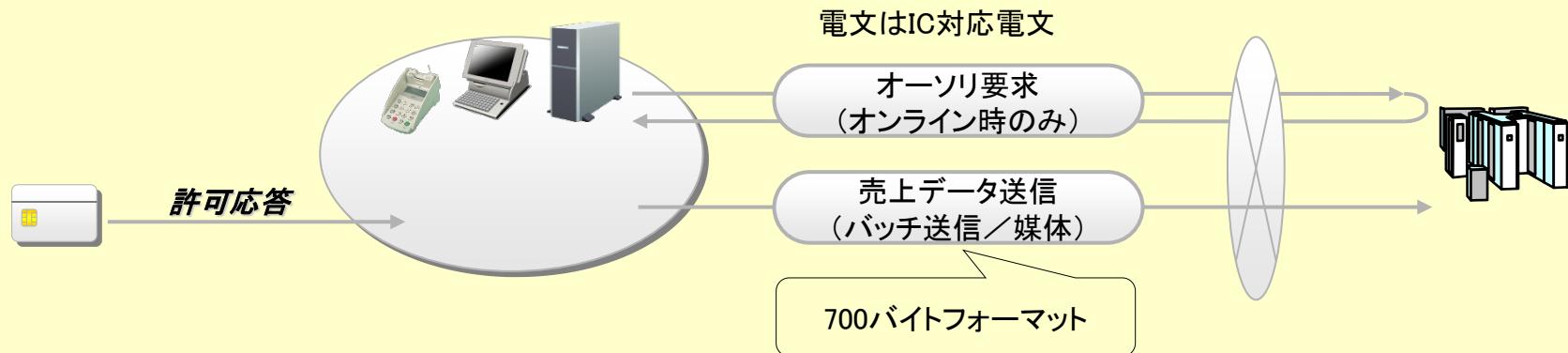
9. 精算運用における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(接触EMV)

接触EMV決済

加盟店システム

情報処理センター

アクワイアラ



参考: ギャザリング運用の場合

電文はIC対応電文



・売上データには、TC(許可応答)やAAC(拒否応答)の「IC取引情報」を含みます

・取引成立は、端末にてTC(許可応答)を取得した時点となります

10. 精算運用における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い(非接触EMV)

接触EMV決済と非接触EMV決済では運用の流れに違いはありません。ただし、電文並びに売上データは非接触EMV決済対応のものとなります。

非接触EMV決済

加盟店システム

情報処理センタ

アクワイアラ

※電文は非接触EMV決済対応電文となります

オーリソリ要求
(オンライン時のみ)

売上データ送信
(バッチ送信／媒体)

700バイトフォーマット
(非接触EMV決済を示す
値を設定)

許可応答

参考:ギャザリング運用の場合

※電文は非接触EMV決済対応電文となります

データギャザリング
(全件オンライン)

許可応答

- ・売上データには、TC(許可応答)、ARQC(オンライン要求)やAAC(拒否応答)の「IC取引情報」を含みます
- ・電文項目については、取引処理編を参照ください

11. 導入段階における接触EMV決済と非接触EMV決済の違い

	接触EMV決済	非接触EMV決済	
導入段階	端末開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア、ソフトウェア開発の中でEMV認定、各種ブランド認定が必要です。 ・システム構成もIC取扱いにともない磁気カードとは異なる部分があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア、ソフトウェア開発の中でEMV認定、各種ブランド認定が必要です(接触EMV決済とは異なる認定となります)。 ・システム構成も非接触EMV決済取扱いにともない磁気決済、接触EMV決済とは異なる部分があります。
	端末設置	<ul style="list-style-type: none"> ・認定済みのPINパッド、接触EMVリーダライタの設置が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定済みの非接触EMVリーダライタの設置が必要です。
	情報登録	<ul style="list-style-type: none"> ・磁気決済取扱いでの各種情報登録以外に、接触EMV決済用として、各ブランドのCA公開鍵、リスク管理パラメータ(TAC情報、フロアリミット等)を登録／更新する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクワイアラによっては、單一アクワイアラから複数の設定情報(加盟店番号等)の登録／更新が求められる場合があります。中継する情報処理センタ側も含めて、対応方法を十分に確認してください。 ・非接触EMV決済では、接触EMV決済と共通の管理情報(TAC)でありながら異なる設定値を登録／更新する場合があります。 ・非接触EMV決済では、非接触EMV固有の管理情報(リミットセット等)を登録／更新する必要があります。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・接触EMV決済固有のエラーコードの追加 例)ICチップ読取エラー 	<ul style="list-style-type: none"> ・非接触EMV決済固有のエラーコードの追加 例)複数枚検知エラー ・「サインレス/PINレス契約」を、すべての契約アクワイアラと締結する必要があります。

12. システムにおける接触EMV決済と非接触EMV決済の違い

	接触EMV決済	非接触EMV決済
システム	端末 ・ICチップからカード情報の抽出 ・IC情報のレシート印字	同左
	オーソリ ・加盟店でのネガチェック折り返し不可	同左
	オンオフ 判定 ・一括支払以外は全件オンライン ・本人確認不要(サインレス/PINレス)取引は オンライン ・ICカードがオン/オフを判定	・一括取引以外は全件オンライン ・本人確認不要限度額をこえる場合は 全件オンライン ・上記以外ではICカードがオンオフを判定
	ネガチェック ・オプション (EMV仕様のException file チェックのことを示し、 本チェックで取引成立とするものではない)	同左
	取消・返品 ・売上取引履歴データを基にオンライン/オフライ ン判定のうえ処理	同左
	売上データ ・ICフォーマットデータ(700バイト) (カード会社が700バイト対応次第、700バイトにて データが送れるよう準備を行う必要があります)	・ICフォーマットデータ(700バイト) ※接触EMV決済とは異なるデータや値をセットする 項目があります
	セキュリティ ・CA公開鍵およびリスク管理パラメータが必要	・CA公開鍵およびリスク管理パラメータが必要 ※リスク管理パラメータは接触EMV決済のものとは 異なります CA公開鍵は接触EMVと同じものを使用します
	カード判定 ・JIS1情報でICカードを判定	同左

● 非接触EMV決済端末に設定する情報関連

□3. 非接触EMV決済端末に設定する情報関連

- | | |
|---|------|
| 13. 非接触EMV決済端末に設定する情報(CA公開鍵・リスク管理パラメータ) | … 20 |
| 14. 非接触EMV決済端末に設定する情報の留意点 | … 21 |

○非接触EMV決済のお取引に必要な各種設定情報をご紹介いたします。

13. 非接触EMV決済端末に設定する情報(CA公開鍵・リスク管理パラメータ)

非接触EMV決済端末に設定しなくてはならない情報として主な情報は以下です。

項目名	加盟店様への 情報提供者	内容説明
<u>CA公開鍵</u>	ブランド毎の代表 アクワイアラ	<p>ブランドごとに指定される<u>カードの真正性確認に使用する鍵情報</u></p> <ul style="list-style-type: none">・同一ブランドでも世代別に複数存在します・鍵の長さが将来的に長くなることを想定しておく必要があります・鍵には有効期限があり、数年ごとの更新対応を想定しておく必要があります・CA公開鍵は接触EMVと同じものを使用します
<u>リスク管理 パラメータ</u>	契約アクワイアラ	<p>契約先カード会社ごとに指定される取引リスクを制御するための情報。代表的な情報として以下のようないことがあります</p> <ul style="list-style-type: none">・TAC(Terminal Action Code) 取引をオンライン処理／オフライン承認／オフライン拒否のどれに決定するかの判断基準となる情報です・リミットセット オフライン取引上限限度額、本人確認不要限度額、 非接触IC取引限度額になります (ブランドによって用意しなければならないリミットセットの数 とそれに付随する設定情報が異なります)その他端末設定値等

14. 非接触EMV決済端末に設定する情報の留意点

非接触EMV決済の処理に必要な各種情報(CA公開鍵・リスク管理パラメータ等)は、ブランドポリシー、カード会社ポリシー等の変更にともない設定内容が更新されるものが存在します。そのため、非接触EMV決済の処理に必要な各種情報は、接触EMV決済のケースと同様、アクワイアラからの通知により更新可能とする必要があります。



□4. 用語解説

15. 用語解説

… 23

○本書で記載している非接触EMV決済関連の用語を解説いたします。

15. 用語解説

用語	説明
AAC Application Authentication Cryptogram	ICカードが拒否取引の際に端末に応答する暗号文。一方、ICカードが許可取引の際に端末に応答する暗号文を「TC」という。
CA(認証局) Certificate Authority	個人やサーバ等の正当性を証明する為に認証書を発行する機関(認証局)のこと。公開鍵暗号方式において、申請者の公開鍵が申請者自身のものであることを証明する為にデジタル証明書を発行することの他、認証書の検証、申請者の公開鍵の登録・管理、認証書の失効・管理等を行う。 非接触EMV決済においては、この認証局が発行するイシュア公開鍵証明書とCA公開鍵がそれぞれICカードとIC決済対応端末に搭載され、EMV仕様に基づく処理過程で、ICカードの真正性を確認する目的で使用される。 国際ブランドのICカードアプリケーションにおいては、各ブランドが認証局を運営する。

15. 用語解説

用語	説明
CA公開鍵	CA(Certificate Authority)が発行した証明書を検証するための鍵。加盟店の端末に登録されている。
CDCVM Consumer Device Cardholder Verification Method	モバイルデバイス上で検証されるカード保有者検証(モバイルPIN／パスコードや指紋などの生体認証)
EMV(EMV仕様)	EMVCoが管理する、ICカードによる金融取引に関する仕様で、国際的なデファクトスタンダードとなっている。ICカードと端末の通信インターフェースを共通化することにより同一の端末で複数のカードを利用することができます。また端末の設置コストも軽減できるうえ、加盟店でのカード取り扱いも共通化できる。
EMV認定	EMVCoが相互運用性の確保のために実施している認定テストのこと。認定にはレベル1とレベル2とに階層化されており、レベル1はハードウェア仕様を含めICカードとのインターフェース制御処理の認定を、レベル2はICカードとのアプリケーション処理の認定を行う。

15. 用語解説

用語	説明
JIS I / JIS II Japanese Industrial Standard	JISとは、日本工業製品規格のこと。カードの磁気ストライプとエンボスに関しては、主に銀行のキャッシュカードが採用しているJIS II型と、ISO規格に準拠しているJIS I型がある。JIS I型はカードの裏面、JIS II型は表面に磁気テープが貼付されており、日本独自の規格である。
NFC Near Field Communication	「NFC」とは、13.56MHz帯域の電波を使用した「近接型」無線通信の規格。この通信規格を用いた、近接型非接触型ICカードはTypeA、TypeB、FeliCaの3つの規格に分類される。 TypeAはtaspo、TypeBは、住民基本台帳ICカード、IC免許証、ICパスポート、FeliCaはEdyやSuicaに代表される日本国内の電子マネーで用いられている。 本ガイドラインでは、TypeA、TypeBを用いた国際カードブランドによる決済を取り上げている。

15. 用語解説

用語	説明
PIN Personal Identification Number	暗証番号。カード所有者の本人確認のために、接触EMVカードには、通常PINが設定されている。(国内で利用されるのは、オフラインPIN)
PIN不知	PINを忘却した状態。
TAC Terminal Action Code(s)	端末に設定される値。アクワイアラがEMV取引をオフライン拒否、オンライン処理及びオンライン不能時の取引拒否に判定させたい条件を示すパラメータ。TAC-Denial(オフライン拒否判定用)、TAC-Online(オンライン処理判定用)、TAC-Default(オンライン不能時用)の3つが存在する。
TC Transaction Certificate	取引証明:ICカードが許可取引の際に端末に応答する暗号文。一方、ICカードが拒否取引の際に端末に応答する暗号文を「AAC」という。
Try Another Interface	非接触EMVカード型を利用した本人確認不要限度額(CVM Reader Required Limit)や、非接触IC取引限度額(Contactless Transaction Limit)を超えた非接触EMV取引で、カードの設定により別のインターフェース(接触EMV)に誘導する処理
イシュア	カード発行者

15. 用語解説

用語	説明
クレジットボタン	<p>本書では支払開始用の操作として「クレジット」ボタンとしているが、場合によってはJデビット、ハウスカードなどと同一ボタンとなることもあり、名称は端末により異なる。</p> <p>また、EMV処理では、クレジットと同じ処理で、ブランドデビット、プリペイドの処理も可能である。</p>
データギャザリング	加盟店、カード会社間の売上データ交換方式で電子化した売上を自動処理すること。一般的にシングルメッセージタイプでの売上の自動処理をデータギャザリングといい、シングルメッセージタイプ、デュアルメッセージタイプに係らず広い意味での売上の自動処理をデータキャプチャーと称する。(データギャザリングは和製英語、英語では電子化売上の自動処理を総じて“EDC=Electric Data Capture”と言う。)
ブランド	クレジットやデビット、プリペイドカードのルールやプラットフォームを策定するプレイヤ。
リスク管理パラメータ	ICカードとIC決済対応端末には、不正使用を防止・抑止する為のリスクパラメータがあり、各カード会社は各ブランドの仕様に則り、独自のリスクパラメータを設定している。

15. 用語解説

用語	説明	
リミットセット	加盟店の端末に登録する情報の一つ。以下3つのパラメータがあり、それらを総称して、リミットセットと呼ぶ。	
	①オフライン取引上限金額 (Contactless Floor Limit)	非接触EMV取引をオフラインで処理する上限金額
	②本人確認不要限度額 (CVM Reader Required Limit)	非接触EMV取引において本人確認を不要とする上限金額
	③非接触IC取引限度額 (Contactless Transaction Limit)	非接触EMV取引そのものを許容する上限金額
	※ブランドによって、用意しなければならないリミットセットの数とそれに付随する設定情報が異なる	
モバイル	本書では、非接触ICカードアプリケーションを搭載した無線通信機能を有している、携帯可能なコンピューティング・デバイスの総称を示す	
公開鍵	公開鍵暗号方式の鍵ペアのうちで、公開する鍵のこと。	
承認後売上	カード会社に承認を受けた後に売上取引を実施すること。	
全件オンライン	全ての取引に対してオンラインで信用照会を行うこと。	
端末	POS、決済専用端末の総称	